

令和6年度 大妻データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

情報リテラシー教育検討部会	
(責任者名) 山倉 健嗣	(役職名) 部会長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>情報リテラシー教育検討部会において、大妻データサイエンス・AIプログラムの履修・修得状況を次のとおり報告した。</p> <p>[家政学部] 履修者数18名(R5_13名) ⇒ 修了者数15名(R5_8名) [文学部] 履修者数8名(R5_1名) ⇒ 修了者数8名(R5_0名) [社会情報学部] 履修者数76名(R5_87名) ⇒ 修了者数69名(R5_78名) [人間関係学部] 履修者数24名(R5_19名) ⇒ 修了者数22名(R5_16名) [比較文化学部] 履修者数14名(R5_12名) ⇒ 修了者数10名(R5_11名) [短期大学部] 履修者数5名(R5_1名) ⇒ 修了者数1名(R5_0名) 【合計】 履修者数145名(R5_132名) ⇒ 修了者数125名(R5_113名)</p> <p>プログラム開始2年目になり、履修可能な学生が増えたこともあるが、昨年度課題となっていた文系学生の履修者も少しずつ増加してきている。引き続き、文系学生の履修者を増やしていきたい。</p>
学修成果	<p>学修成果は「大妻データサイエンス・AIプログラム修了者アンケート」において、プログラムを構成する科目の到達目標に達したか確認するとともに、プログラムの共通科目である「データサイエンス・AI概論」の成績分布を調査し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。令和6年度の結果および令和5年度からの推移は次のとおりであり、昨年度に続いて肯定的な回答が多い。次年度以降も同アンケートの結果により、経年変化を確認する。</p> <p><データサイエンス・AI概論の到達目標への到達度> 「そう思う」58.8%(R5_53.8%) 「ややそう思う」39.7%(R5_44.2%) 合計98.5%(R5_98.0%)の学生が肯定的な回答だった。</p> <p><コンピュータ基礎B、情報処理実習A、情報処理実習Bへの到達度> 「そう思う」61.8%(R5_66.0%) 「ややそう思う」36.8%(R5_30.2%) 合計98.6%(R5_96.2%)の学生が肯定的な回答だった。</p> <p><データサイエンス・AI概論の成績分布> 昨年度に引き続き、各回ごとに成績分布に差が生じている。この現象はオムニバスで実施していることが起因していると考えられる。次年度については、大妻女子大学成績評価に関するガイドラインに沿った授業レベルの設定を周知する。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>学生の内容の理解度については、プログラムの共通科目である「データサイエンス・AI概論」の授業改善のためのアンケート（設問9：この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。設問10：あなたは授業に満足しましたか）によって自己点検・評価を実施する。</p> <p>令和6年度の結果および令和5年度からの推移は次のとおりであり、設問9は微減、設問10は7.5%減少しており、授業の満足度が低下している。次年度以降も同アンケートの結果により、経年変化を確認する。</p> <p>設問9：この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。 「そう思う」44.9%(R5_57.8%) 「ややそう思う」43.4%(R5_33.6%) 合計88.3%(R5_91.4%)の学生が肯定的な回答だった。</p> <p>設問10：あなたは授業に満足しましたか。 「そう思う」41.1%(R5_51.6%) 「ややそう思う」35.4%(R5_32.4%) 合計76.5%(R5_84.0%)の学生が肯定的な回答だった。</p> <p>その他、「大妻データサイエンス・AIプログラム修了者アンケート」ではプログラムについての感想や改善してほしい点も確認しており、「数学が苦手な私でも楽しめた」「いろんな分野からデータ活用の事例を見るのが面白かった」というプログラムの到達目標と合致する意見があった一方、「学ぶというより一方的に聞かされているような授業もありました」などの意見もあり、次年度以降の授業内容に活かす。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度</p>	<p>後輩等の学生への推奨度は「大妻データサイエンス・AIプログラム修了者アンケート」において、「友だちや後輩に受講を検討している人がいたら、プログラムをお勧めすることができますか」という設問を設け確認し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。令和6年度の結果および令和5年度からの推移は次のとおりであり、プログラムの推奨度について、「そう思う」と回答した学生が大きく増加した。次年度以降も同アンケートの結果により、経年変化を確認する。</p> <p>「友だちや後輩に受講を検討している人がいたら、プログラムをお勧めすることはできますか」 「そう思う」44.9%(R5_26.4%) 「少しそう思う」43.5%(R5_58.5%) 合計88.4%(R5_84.9%)の修了者が肯定的な回答だった。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>プログラム開始2年目となり、履修可能な学生数が増加したにも関わらず、履修登録の仕組みに課題があり、プログラム履修者は13名しか増えなかった。これを踏まえ、令和5年度同様の計画に加え、全学的な履修者数、履修率向上のため、令和7年度に向けて次のような施策を講じることを決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで後期履修登録時のみ認めていた他キャンパス履修と単位互換について、後期履修登録時では、既に履修登録が固まっていることも多いため、前期2回目の履修登録から認めることとした。これにより、前期1回目の履修登録で抽選漏れた学生などが後期まで待たずに追加履修登録を行うことが可能となり、履修者数向上に繋がる。 ・データサイエンス・AI教育プログラムの必修科目である「データサイエンス・AI概論」の履修上限人数について、それぞれの学生数にあわせて、千代田校大学分を150人から200人、短大分を150人を100人に変更した。これにより、千代田校の大学生の抽選漏れ減少に繋がる。 ・大妻嵐山高等学校3年生のうち、大妻グローバルコース（大妻女子大学への進学を希望している生徒向けのコース）の生徒約40名に対して、高大連携プログラムとして、「データサイエンス・AI概論」の履修を可能とした。
<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本プログラムは令和5年度入学生から履修可能となったプログラムのため、その学生らの就職が大学の場合は令和9年度、短大の場合は令和7年度となる。</p> <p>本来であれば令和6年度末には短大からプログラム修了者が出て就職となるが、修了者が1年生だったため、次年度以降に修了者の進路、活躍状況等を確認していくこととなる。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>データサイエンス分野に関する協力企業と大妻データサイエンス・AIプログラムの内容・手法に関する意見交換会を令和7年4月に行った。意見交換会の主なテーマは、令和6年度の実績を踏まえ、①大妻データサイエンス・AIプログラムの内容・手法について、②情報リテラシー教育として、大学・短大時代に学んでおいてもらいたい内容について、③企業における生成AIの活用事例や倫理教育について、などとした。</p> <p>その意見交換において、「内容について、データサイエンスとはどういうことか、実社会でどう使われているのかなど、具体例を挙げながら、それらを活用することの楽しさや学ぶ意義を示しており、全体的に適切であると考えている」</p> <p>「手法についても、"データサイエンス・AI概論"はオンデマンド授業であり、いわゆるアクティブラーニング形式ではないが、データサイエンスを初めて学ぶ学生には知識のインプットが必要なため、適切であると考えている。また、もう1つの演習科目において、リテラシー段階としてはまずはツール活用に習熟することが効果的であり、かつその中で一般的な関数利用を通じて考えながら手を動かす経験を積めることから、こちらも適切であると考えている」との評価があった。</p> <p>その他「難易度について、アンケート結果を見ると"少し難しい"という回答が最も多いが、新しいことを学ぶ上ではこの程度がちょうどよいのではないか」との評価もあった。さらに、プログラムの難易度については、「専門用語を覚えなければならないということではなく、その概念を理解できれば良いということを学生に示すことが必要かもしれない」といった示唆もあった。これらについては、5月に開催した情報リテラシー教育検討部会において、自己点検・評価結果として共有され、次年度以降のプログラムの内容に活かすこととなった。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解してもらうために次のような取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルカリキュラムの導入と心得の内容を含む「データサイエンス・AI概論」は、授業のガイダンスとして、初回授業の前にプレ授業を設け、「学ぶことの楽しさ」「学ぶことの意義」を説明している。 ・複数学部の教員がオムニバスで担当することにより、学生自身の今後の学修と関係のある内容も含めることで「学ぶことの意義」を伝える工夫をしている。 ・担当教員がシラバスを執筆する際に参考とする授業概要には、データサイエンス・AIを活用することの「楽しさ」や「学ぶことの意義」に重きを置くことを事前に伝えた。 <p>その結果、「大妻データサイエンス・AIプログラム修了者アンケート」ではプログラムについての感想や改善してほしい点の回答として「数学が苦手な私でも楽しめた」「いろんな分野からデータ活用の事例を見るのが面白かった」というプログラムの到達目標と合致する意見があった一方、「学ぶというより一方的に聞かされているような授業もありました」などの意見もあり、次年度以降の授業内容に活かす。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本学では、データサイエンス分野に関する協定を締結した企業や協力企業との意見交換を年に1回行い、社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえた教育内容の見直しを行っている。</p> <p>今年度も上記「産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見」のとおり実施しており、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業のために必要な意見をもらった。それらについては、情報リテラシー教育検討部会で共有しており、次年度以降のプログラムの内容に活かすこととなった。</p>